

ひめボス推進へ 「関係の質」重要

松山大でセミナー

松山大と県は20日、松山市文京町の同大で「ひめボス推進・働き方改革セミナー」を開いた。市民や学生ら約130人が、力を発揮し業績を上げる働き方を学んだ。

「ひめボス」は、部下や自分の私生活と仕事の両立を目指し、地域の活性化を図る県版「イクボス」。「ひめ



ひめボスグランプリ受賞企業の事例を紹介する木曾千草社長
—20日午後、松山市文京町

ボス」が推進する働き方改革の重要性を理解してもらおうと、同大と県が2017年10月から開催し2回目。20日は、県が認定する「ひめボス講師」で能力開発システム研究所（松山市）の木曾千草社長と、松山大経営学部の柴田好則准教授が講演した。

築した例を挙げ、上司と部下が対話を通じて「関係の質」を上げることが重要と話した。働き方改革では、トップが意識を変えることや従業員が相互に助け合うことも必要とした。

柴田准教授は、働き方の多様化で処遇や仕事量に差が出て不公平感が広がりやすいと指摘。上司は部下の努力をしつかりと見て評価しなければいけないと述べた。
(宇都宮理恵)